



本日はよくお参り下さいました

青葉が目眩しいこの頃、いかがお過ごしでしょうか。先月4月14日に発生した熊本地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。さて、まだ寒さの残る3月から4月にかけて、境内の狛犬を参考に作品を制作されていた作家さんがいらっしゃいました。高家 理(こうけ おさむ)さん。その様子は何度かホームページで写真を掲載し紹介させて頂きましたが、宮城県石巻市出身で主に石を素材とした作品を制作されているそうです。当社の狛犬の形がとてもよいとのことで、去年から何度か、制作にこられていました。当社の狛犬の作者は、名前が削れて不明なのですが、手彫りでこれだけの作品を作るには、相当な技術とセンスがいるそうです。それにしても高家さんの制作時間には驚かされました。朝から夕方まで、ほぼ丸1日休みなしで数日間行うのです。境内で行っていたのは、石にする前に粘土で原型をつくる段階でした。3歳の娘が、黙って何十分もそばを離れず、じっとその作業を見守っていたことには少し驚きました。参拝者の方も立ち止まって見ていたり、やはり、芸術には人を惹きつける何かがある気がいたします。今月も、皆様のご健勝とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。権禰宜道子



5月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の永遠と国家の発展、氏子・崇敬者並びに社会の幸福と平和を祈ります。

1日 八十八夜「夏も近づく八十八夜、野にも山にも若葉が茂る」と文部省唱歌に歌われる八十八夜は、立春から数えて八十八夜目にあたる、日本独特の暦日です。

3日 憲法記念日 日本国憲法が施行された日。

4日 みどりの日 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し豊かな心を育む日。

5日 こどもの日(端午の節句) こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日。ちまきや柏餅を食べてお祝いし、江戸時代以降は男子のいる家では鯉のぼりを立て、甲冑・刀・武者人形を飾って子供の成長を祝うようになりました。菖蒲湯に入る風習は、菖蒲が薬草であることから、急に暖かくなって病気がはやりやすいこの時期に病魔や災厄を除けると信じられていたからと言われています。



5日 立夏(りっか) 春ようやくあせて、山野に新緑が目立ち始め風もさわやかになっていよいよ夏の気配が感じられてくる頃。気象的にはまだ春といった感が強いでしょう。

天神さまの豆知識

― 神道と仏教と儒学 ―

日本におけるカミ(神)とは、原初的には目に見えない人格を持たない存在であつて、自然神としての要素が強いものでした。しかし、実際には日本人のカミに対しての考え方は古代・中世・近世とそれぞれの時代において大きな変化をとげています。五世紀から八世紀にかけて国家体制を整える際に、日本は大陸の制度を参考にしました。又当時の東アジアを風靡していた思想といえば、論語(儒学又は儒教)ですが、その論語により、日本に漢字文化が伝わりました。日本人が漢字を学ぶことで儒学が教養として広まったのです。漢字の後「百濟から伝来した大乘仏教は、儒教の影響で先祖供養を行うことから、もともと行われていた日本人の祖霊祭祀を担うようになります。また救済や慈悲というそれまでの日本にはなかった考え方や、日本の神々と仏の関係性を示しながら教えを説くことで、急速に国民に浸透していききました。このように、日本人が神道と仏教を同時並行的に信仰できた背景には、儒学が存在があつたのです。その後江戸時代にも儒学が台頭し

道徳の普及に大きく貢献しました。しかし今儒学を学ぶ機会が少なくなつてしまつたことは、残念なことです。参考 『神社と神々』監修 井上順孝



お祭り歳時記

三社祭(さんじやまつり)

(五月十三日・十四日・十五日)

浅草神社の祭礼で、神田祭、山王祭と並び東京三大祭の一つ。三基の大神輿が有名で、三日間で毎年約一五〇万人の人数が見込まれます。三社さまの由来は漁師の檢前浜成・竹成(ひのくまのはまなり・たけなり)兄弟が隅田川から持ち帰つた仏像を土師真中知(はじのまっちが)が奉安し、供養護持と郷民の教化に生涯を捧げました(浅草寺の起源)。土師真中知の没後、その嫡子が観世音の夢告を受け、三社権現と称し右記の三人を神として祀つたのが三社さま(浅草神社)の由来です。

今月の言葉

『古人の跡をもとめず』

古人の求めたる所を

もとめよ

〔松尾芭蕉「風俗文選」より〕
優れた昔の人の成したことを参考に
にするのは大事である。しかし、それをそのまま真似るのではなく、なぜ個人がその行動をしたのか、どういう考えや思いで、どんな状況にあつたかを知ることによって、初めて古人の考えがわかる。昔の良き人の、成果に至る過程や状況、思惑に通じることで、古人の心や考えを知る。古人が本心に求めたものを見極めることで、初めて古人の出した成果の本質がわかる。
参考文献『神道のことば』武光 誠 監修
平成二十六年七月五日河出書房新社発行